



やくよけ祖師 堀之内 妙法寺

〒166-0013 東京都杉並区堀之内 3-48-8

Tel: 03 - 3313 - 6241

Fax: 03 - 3313 - 5007

<http://www.yakuyoke.or.jp>



表紙 祖師堂欄間「迦陵頻伽」
かりょうびん が

神社・寺院の欄間や向拝など多くの作品を手がけた房州の名匠初代波の伊八こと武志伊八郎信由なみ いはち たけし いはちろうのぶよし（宝暦2年～文政7年・1752～1824）20歳の時の作品。平成10年の祖師堂大改修の際に塗り直され、完成当時の姿で堂内を華やかに彩っています。

迦陵頻伽は、上半身が天女の姿をした美声の鳥で、浄土に住むといわれます。法華経では仏さまの音声の尊いことを迦陵頻伽の鳴き声に喩えています。

初代波の伊八
没後200年を記念して

初代波の伊八展
開催

休憩所にて写真パネル展を開催するほか、祖師堂欄間「迦陵頻伽」「松に孔雀」を特別公開いたします。

【日時】 令和4年4月3日(日)～15日(金)
10:00～16:00 (入場無料)

【主催】 初代波の伊八没後200年
キャンペーン準備室
☎047 - 477 - 8629

宗歌

日蓮聖人最晩年の弘安五年に詠まれた歌です。

「生涯を振り返ると、ほんとうに様々なことがあった。命を失わんとしたこともしばしばであった。しかし、この身延のお山は、釈尊が法華経を説かれた靈鷲山と同じ。木々を渡る風も、川の流れも皆法華経の教え。今こうして身延の山で弟子、信徒に囲まれ、法華経に生かされる日々を送っている私の心は、実に安穩で豊かである。身も心も晴れ渡つてすがすがしい。」との思いがこの歌に込められています。

この歌は弘田龍太郎氏が作曲。現在、日蓮宗の宗歌となっています。

宗歌

日蓮聖人御詠

立ち渡る

身のうき雲もはれぬ

たえぬ御法みのりの鷲りの山風



蔵の財たからより身の財すぐれたり
身の財より心の財第一なり……
心の財つませ給ふべし
(崇峻天皇御書)

自然界の力は限りなく大きく、人類の能力は遠く及ぶものではありません。その中で生きながら、

立ち開はたかる力を前に克服しながら生存して来ました。今、新型コロナウイルスが二年以上の間、変異をしながら世界中の人々の生活を脅かし続けています。厳しい規制を布き冬期の北京オリンピックが開催されました。我が国でも昨年開催に賛否の意見がありました。一年遅れで夏期東京オリンピック・パラリンピックが行われました。大きな支障

も無く、日本選手の活躍が大変明るく嬉しいニュースとして報道されました。

オリンピックに続き行われたパラリンピックは日本の人々にとり大変意義ある大会だったと思います。身体に障がいを持つ人の競技会をイギリスの病院で行われたのを切っ掛けに、一九五二年に国際大会が開かれるようになったそうです。私達は選手の活躍を知っていても詳しくは知らず、競技を見る機会もありませんでした。それらの競技は一般のそれとは比較出来ず、記録も及ばないかもしれません。しかし、身体的にハンデを持ちながら、視覚障がい者マラソンの道下美里選手はパラリンピック記録を更新し、見事な駆け引きで勝者に、水泳の十四才山田美幸さんは百m・五十mの競技で足のキックのみで銀メダルを獲得、その喜びの笑顔は人々に共感を与えました。ボッチャという競技で優勝した杉村英孝選手のパフォーマンスは、その正確さに誰もが驚かされた事でしょう。その他、女性選手が車いすごと身体をはって男性選手の動きを阻止

している車いすラグビーの迫力。又、口でラケットを銜くはえて足を繰りサーブする卓球選手がいましたが、人間の技とはとても思えません。男子走り幅跳びの選手はオリンピック優勝記録を上回り、先日十一度目となる全豪オープンテニス大会優勝を果たした車いすテニス国枝慎吾選手は、強豪プロメジャー選手も認めるメダリストです。

東京パラリンピックの競技を見て人間の無限とも思える可能性、一般スポーツ競技と何ら見劣りのしない醍醐味がある事を知りました。そして、彼らが持ちえる身体的能力を最大限に駆使して競技している姿にこの上ない感動を覚えました。身体に障がいをもった選手がスポーツを通して如何に自分達を最大限に表現する為に、時間・努力と体力を費やしている姿は想像に難くありません。

先頃逝去された天台宗の僧侶瀬戸内寂聴さんは、その書の中で「人間はどんな人であれ、生まれて来る値打ちがあるから生まれて来ます。自分という人間は、この世に一人しかいません…親は、それぞれにすばらしいものを与えてくれています。それに気がつかないのは、その人がバカなのか、努力をしていないからです。」と述べられています。

私達は、時として足りている事を忘れ、感謝する気持ちを忘れ、自分に無いものを努力もせず求める事があります。仏様の教えは、一切衆生あらゆるものが平等であることを説かれますが、実際、私達凡夫の見方からすれば、人それぞれ顔かたちが違うように、あらゆるものが同じではありません。しかし、心のはたらきと言うものは、誰でも平等に持ち、そして、使う事が出来ます。ですから冒頭の日蓮聖人のお言葉に”心の財第一“と言われ、どの財よりも心に備わった財が第一である

と仰り、私達に心の財を積み上げるよう心掛けなさいと諭されます。私は、パラリンピックの選手等が競うパフォーマンスを目にし、彼らが心に積み上げて来た財を表現しているかの様に見えました。

日蓮聖人の手紙

(三十四)

妙揚寺住職
立正短期大学学長
立正大学名誉教授

北川 前肇

「文永九年の夏の比、佐渡の国石田の郷一谷と云ひし処に有りしに、
預りたる名主等は、公と云ひ私と云ひ、父母の敵よりも、宿世の敵より
も悪げにありしに、宿の入道といぬ、めといぬ、つかうものと云ひ、
始めはおぢをそれしかども、先世の事にやありけん。内々不便と
思ふ心付きぬ。預りよりあづかる食は少なし。付ける弟子は多くあり
しに、僅の飯の二口三口ありしと、或はおしきに分け、或は手に
入れて食ひしに、宅主内々心あて、外にはをそるる様なれども、内には
不便げにありし事、何の世にかわすれん」

訳

〔佐渡流罪翌年の〕文永九（一二七二）年旧暦の夏のころ（四月頃）、（塚原三昧堂から）佐渡国佐和田郡石田郷の一谷という所に移りました。私の身をあずかった地頭本間重連の配下である名主（一谷入道・近藤清久と伝える）などは、おおよげの幕府に仕える人として、あるいは内の人に対しても、万事にわたって私（日蓮）を、父母の敵よりも、前世からの仇敵よりも、にくにくしげに対応されました。けれども、私をあずかる入道やその妻、また家人たちは、はじめは気味悪げにおそれていましたが、前世からの縁でもあったのでしようか。内々に私たちに同情を寄せられるようになりました。私の身柄を預かる名主から手渡される流人としての食糧は少ないものです。しかし、私に付き従っている弟子たちは多くありましたので、わずかに二口か三口の飯を折敷（白木の四角い盆）に分けたり、手のひらに受けて食するというありさまでした。これを見た入道は、表面では人目をはばかるようなふるまいでしたが、内心同情を寄せ、陰では世話をしてくださったことは、いつの世になつても、忘却できない親切心であつたと思われれます」

（建治元（一二七五）年五月八日・『一谷入道御書』・昭和定本九九四頁）

解説

日蓮聖人は、五十歳（文永八（一二七二）年十月）から五十三歳（文永十一（一二七四）年三月）までの数えの四ヶ年間、流人として佐渡国で過ごされました。その流人生活は、はじめのおよそ半年間は、地頭本間重連の邸宅の、後方に広がる死者埋葬の地に建てられた三昧堂です。この地で『開目抄』が執筆されています。その後、五十一歳の四月頃から、本間氏の配下である一谷入道の邸宅内のお堂を生活の場とされます。しかし、入道および家族、そして下人たちは、最初は、恐れを抱いて聖人との距離もみられましたが、徐々に同情を寄せるとともに、親切な行爲におよんだのです。あるとき、鎌倉から女性信徒が聖人のもとを訪ねるのですが、帰りの路銀に困窮し、一谷入道が用立てをし、その返礼として聖人は、法華経および開結の全十巻を手渡すことを約束されたのです。そのことから、佐渡流罪赦免後、身延にあった聖人が法華経十巻に添えて入道の妻に宛てられた手紙の一節が、この文です。なお、この一谷の地で日蓮聖人にとっての最重要書の『如来滅後五百歳始観心本尊抄』が完成しています。令和四年四月二十五日は、執筆七五〇年に当たるのです。」

日蓮聖人の生涯

【第十四回】

遠藤教温

◆身延を出て池上へ

今は思親閣の建つ身延山頂に登った日蓮聖人は、遙か房州ぼうしゅうのかなたを望んで故郷への思いを募らせました。

ふと、「ワカメが生えている」と思つて駆け寄つてみたところ、それは蕨わらびであつたり、谷に下つて、「あ、海苔だ」と見ると芹せりだつたり、ありえないワカメと海苔を見間違えるほど故郷への思いは切々たるものでした。

故郷の恩人である領家りょうけの尼あまから海苔を送ら

れた日蓮聖人は、「昔、小湊の磯のほとりで見た海苔と同じものだ。色も形も味までも変わっていない。それなのにどうしてわが父母は変わられてしまったのか、方角違いの恨めしい気持ちになつて涙をおさえることができない。」
〔『新尼御前御返事』〕との御礼状を書き送っています。故郷への思いの強さがよくわかるお手紙ですね。

建治二年（一二七六）三月十六日、師匠の

道善房どうぜんぼうが故郷清澄せいじやうで逝去せいきよされました。

この悲報を聞いた日蓮聖人は、「火にも入り、水にも沈み、走り立つて行き、お墓をもたたい経をも一卷読誦したい。」と嘆かれ、「草木は大地なくして成長することはできない。

経の題目が末法の時代に広まることを述べ、

「されば花は根にかへり真味は土にとどまる。この功德は故道善房の聖霊の御身に集まるべし。」と回向えきやうし、法華経の行者のすべての功德を亡き師匠に捧げたのでした。

日蓮が法華の行者となつたのは、亡き師道善房のおかげなのだ。日蓮は草木の如く、師匠は大地のごとし。「と思いを込めて、『報恩抄』一卷を書きました。そして、師匠の墓前と清澄山の頂でこの『報恩抄』を読むようにと弟子の日向上人にじやうじんを遣わしています。

「日蓮が慈悲広大ならば、南無妙法蓮華経は万年のほか未来までも流るべし。日本国の一切衆生の盲目しやうめいを開ける功德あり。」と法華

弘安五年（一二八二）秋、日蓮聖人は、九ヶ年の間住み慣れた身延山を下りる決意をされました。この冬を越すのは厳しいのでは、と聖人の体調を気遣う弟子や信徒は、「常陸ひたちの湯で湯治療養されたら」と盛んにすすめます。

聖人は、ついにその願いを受け入れるとともに、自らは、この機会に、「今一度、安房あわの国に戻つて故郷を見、父母の墓に詣りたい。」との願いを叶えるために身延山を離れることを



きめたのです。

九月八日に身延山を出発。波木井実長の子息らに警護され、実長がつかわした栗鹿毛の馬に病身を預けての旅立ちでした。一行は、甲州路を進み、下山、鰍沢、曾根、黒駒から御坂峠を越えて河口湖畔に出ます。籠坂峠を越えて暮地、竹之下へ、更に足柄峠を越えて雨坪に下り、九月十五日、雨坪に一泊されています。今、この地には宗祖ご一泊の霊場として関本山弘行寺があります。

聖人一行は、同十六日に平塚、十七日瀬谷にそれぞれ一泊、九月十八日に池上宗仲の館に到着されました。

翌日の九月十九日、日蓮聖人は、病身の旅、

さぞお疲れのことでしょうに、身延の波木井公にお礼状を出しておられます。

「^{かしこ}畏み申し候　みちのほどべち事候はでいけがみまでつきて候」と始まるこの手紙は、最後に、「所ろうのあいだ　はんぎやうをくはへず候事恐れ入り候」とあるように、自分のサインも書かないほど疲れているなかで、弟子に筆をとらせて書かれたものです。石川教張師の手になる現代語訳の文によつて、日蓮聖人のこのころを感じ取つて下さい。



謹んで申し上げる。道中別段のこともなく、池上まで着いた。道の途中では、山と言ひ、

河といい、いささか越えるのが難儀であつたが、あなたの御子息たちに守られて、つつがなくここまで到着したこと、恐れながら喜ばしく思っている。あるいはまた、やがて戻つて帰る道ではあるけれども、病の身であれば、いつどんなことがあるか、はかり知れない。そうではあるが、日本の国中の多くの人たちがもてあつかいかねている日蓮の身を、九ヶ年までも御帰依くだされたお志は、言葉では言いつくせないほどである。たとえ、いずこで死のうとも、墓を身延の沢に建てるようにしてもらいたい。

また、あなたが付けてくれた栗鹿毛の馬は、あまりにすばらしいと思うので、いつまでも失いたくない。常陸の湯にも引き連れて行きたい

と思っていたが、もしも人に盗られはしないかと心配し、またそのほかいろいろと気づかわれるので、常陸の湯から帰ってくるまで、上総の藻原殿（かずさ もはら さいとうかげつな）（斎藤景綱）のもとに預けて置こうと思う。この馬のことをよく知らず慣れていない舎人（とわり）を付けておいては、馬がどうなるか心もとなく思うので、湯に行つて帰ってくるまで、これまで引いてきたこの舎人を馬に付けておきたいと思つている。そのことを、あらかじめ御承知おき下さるよう申し添えておきたい。

九月十九日

日蓮

波木井殿へ進上す

病中のことであるから、花押を書き

くわえなかつたこと、悪しからず思つて下さい。



いかがですか。自らの病身を押して、粟鹿毛の馬にまで注ぐ深い愛情が伝わってきます。墓を身延にたててほしい、との御遺言は身延山をお釈迦様の聖地である靈鷲山（りゅうじゆせん）ともなぞらえた日蓮聖人の深い願いでもあったのです。

「魂は未来の際までも身延山に住むべく候」と言い残されているように、日蓮聖人の魂は今も身延山に住んでおられるのです。

死を覚悟された日蓮聖人は、十月八日に本弟子六人（日昭・日朗・日興・日向・日頂・日持）



を定め、この六人を中心に日蓮一門が活動すべきであることを示されました。弟子・信徒に「形見分け」もされた記録が残されています。

そして、弘安五年（一二八二）十月十三日御前八時頃、日蓮聖人は、波乱多き六十一歳の御生涯を静かに閉じられました。その時、大地が振動し、庭の桜が一斉に花開いたと伝えられています。それは、聖人の肉体は失われても、魂は朽ちることなく永遠に生き続けていると教えているかのようでした。

東光山善栄寺

日蓮宗の寺院は、全国に約五千ヶ寺あります。その中でも、特に縁の深い寺院のつながりを「法縁」と呼んでいます。ここでは、堀之内妙法寺を中心とする「堀之内法縁」に属する寺院を紹介していきます。



住職 佐藤 教徳
さとう ぎょうとく

(一二六三)二月二十二

当山は東光山善栄寺と言い、千葉県勝浦市の南端に位置する興津、JR外房線上総興津駅のすぐ横にあり、よく駅裏のお寺、又、お年寄りなどは、お寺のある地区のことを「ドラ町」と呼んでおります。

当山の由来は、日蓮聖人御在世当時に廻ります。日蓮聖人四十二歳の時、弘長三年

日に伊豆流罪を赦され、鎌倉にお戻りになりました。その年か翌文永元年(一二六四)、聖人は母上の病氣看護の為に、安房に帰省しました。「日蓮悲母をいのりて候ひしかば、現身に病をいやすのみならず、四箇年の寿命をのべたり」(可延定業御書)といい、母上の



▲堀之内妙法寺第三十四世 雨等院日寛山主様の書による山号額

病氣平癒の後、安房において再び法華経弘通活動をはじめました。この年の十一月十一日、西条華房に向かう聖人一行約十名を、東条の松原の大路にて、東条景信はじめ多くの念佛者が襲うと

いう、小松原法難がおこりました。この法難で聖人は頭に疵を受け、左手を折られ、弟子一人は討ち死にするという、死に直面する大難を受けました。聖人は危うく景信の襲撃を免れて鎌倉にお戻りになり、翌文永二年(一二六五)十一月十一日の前には、再び安房にお帰りになりました。その理由は、



小松原の御法難で亡くなった弟子の一周忌を悼^{いた}んでのことではないかと言われております。

翌文永三年正月六日に清澄寺にて「法華題目抄」をお書きになっておりますので、この頃までは安房周辺にて弘通活動をしていたと思われます。

この頃(小松原法難の前後)に安房天津に隣接している上総興津村を聖人が訪れたところ、村には疫病が蔓延し、村人は悲嘆に暮れておりました。聖人はこれを哀れに思い、興津の村を一望出来る小高い丘に登り、そこに祭壇を設け、疫病消除の祈禱をされま

た。しばらくして疫病が収まったので村人は聖人に大変感謝をし、疫病消除の地として語り継がれておりました。

時代が下がって、永正五年(一五〇八)、疫病消除の祭壇を設けた小高い丘に、善栄^{ぜんえい}院^{いん}日真上人^{にっしん}がお寺を建立し、その由来から疫病消除祈禱・陀羅尼^{だらに}之靈跡、「陀羅尼之祖師」東光山善栄寺として、今日に至っております。

冒頭に書きました「ドラ町」とは「陀羅尼の町」が訛ったものと思われます。

本堂の山号額は、堀之内妙法寺第三十四世雨等院日寛山主様の



善 栄 寺

【所在地】〒299-5245 千葉県勝浦市興津 625-1
電話：0470-76-0924

【交 通】●JR外房線上総興津駅下車10分

「祖師堂」

Q 「やくよけのお祖師さま」の
いわれを教えてください

祖師堂には「やくよけのお祖師さま」がご奉安されています。

日蓮大聖人が、弘長元年（一二六二）五月十二日伊豆流罪となり、小舟で由比ヶ浜から伊豆の伊東へ船出ししようとしたとき、お弟子の日朗上

妙法の流布疑うべくもない。いざさらば、大法の御ため、その身を愛せよ。」との言葉を残して舟は出て行きました。

鎌倉に留まった日朗上人は、毎日由比ヶ浜に立ち、はるかに伊東の方を眺めては、日蓮大聖人の無事を祈っておりました。

そんなある夜、沖の方から不思議な光を放って漂ってくるものがあり、近づいて見るとそれは浮木の光でした。日朗上人は、これは天の与えるところと思い、この木で日蓮大聖人の尊像を彫刻し、まさに生きている大聖人にお仕えするように昼夜に恭敬礼拝し、師の無事を祈り続けました。

日朗上人の心からの祈りが通じたのか、弘長三年（一二六三）五月、日蓮大聖人は赦されて鎌倉に帰って来られました。日朗上人の思いに心

人が舟に駆け寄り、「お供させて下さい」と護送の役人に懇願しましたが、逆上した役人によって權で打ち据えられてしまいました。

波打ち際に倒れ伏した日朗上人に、日蓮大聖人は「旭が東天に輝くときは汝の無事を思おう。

月が西山に照るを見ては日蓮、伊東に無事なるを知れ。法華経を身に読んで或いは流され、或いは打たれること、如来の金言少しも違わず、

を打たれた日蓮大聖人は、自ら御尊像を開眼されました。

時に日蓮大聖人御年四十二歳。男性の厄年であったことから、後世の人は、この御尊像を「除厄祖師」あるいは「やくよけのお祖師さま」と呼び、靈験あらたかなことで多くの信仰を集めてまいりました。

Q 祖師堂は、いつの頃のまじりこつて
建立されたの？

現在の祖師堂は、明和八年（一七七二）、十六世日沼上人の代に建立されたものを基としています。

その後、「除厄祖師」としてさらに盛名を馳せ、参詣者も増えるなかで、寛政十三年（一八〇一）、十八世日観上人によって改築が発願されました。



この工事半ばにして日観上人は遷化され、十九世日健上人が志を継ぎ、文化八年（二八二一）、現在の祖師堂は完成致しました。

構造は、桁行五八尺（二七、五メートル）、梁間八九尺二六、九七メートル、日蓮大聖人四十二歳の厄に因んで四十二本の櫓の丸柱を以て建てられています。正面破風には飛龍の彫刻、向拝には大白龍五尾生動の彫刻、左右に獅子像、上長押には波に犀の彫刻が施されています。これらの彫刻は、葛飾北斎にも影響を与えたといわれる



房州の名匠初代波の伊八こと武志伊八郎信由（宝暦二年〜文政七年一七五二〜一八二四）二十歳の時の作品で、生命を吹き込まれたかのように躍動感に溢れ、天下の逸品と評価されています。

この祖師堂は、再建後も堀之内のお祖師さまとして隆盛になり、読経の音声絶えることなく、法味は一山に溢れ、ご利益に与かろうという参詣者で賑わいました。祖師堂は、参詣すればお祖師さまと心が通じ、願いが叶うという意味で「感應法閣」とも呼ばれ、欄間に身延山第七十四世吉川日鑑上人の筆による金文字大額が飾られています。

祖師堂の内部はどんな特色があるの？

江戸文化の爛熟期といわれる化政時代に建立

された祖師堂は、堂内にも当時の芸術の粋を集めた装飾が施されています。

内陣は、お祖師さまを御奉安する宮殿をはじめ、欄間・幢幡・丸柱に金箔が施され莊嚴を極めていきます。また、背後には、元鐘楼門に奉安されていた、仏師玉沢浄慶・良慶父子作、寛政二年（二七九〇）二月十六日開眼の増長・廣目の二天王像を安置しております。南方を守護し病気の難を除く増長天と西方を守護し怨敵の難を

払う廣目天は、ともに憤怒の相で仏法に仇なす存在である天邪鬼を踏まえており、見る者を圧倒します。

外陣の正面欄間の中央には松に孔雀、左右



▲吉川日鑑上人の筆による金文字大額「感應法閣」

かりようびんが
に迦陵頻伽(浄土

にいるとされる

上半身が天女

の姿をした美

声の鳥が彫ら

れています。

これらの彫刻も

初代波の伊八に

よるもので、目に

も鮮やかな彩色で堂内に

華を添えています。



▲外陣の正面欄間中央には松に孔雀

建立より二百年近くの時を経て、随所に傷みが目立っていた祖師堂は、平成十年(一九九八)、三十五世駒野日法上人の代に大改修が行われ、建立当初の輝きを取り戻しています。

◎ 祖師堂では、
どんな行事が行われているの？

五月の千部会や十月のお会式などの年中行事のほか、毎月十三日は宗祖御縁日、二十三日は二十三夜尊御縁日として午前十時と午後一時より僧侶による勤行が行われます。その他にも、檀信徒の皆様が主体となる月例行事として、毎月三日のお題目道場、毎月二十八日(土日)の場合に変更の読誦道場があります。

こうした行事のほか、祖師堂では随時お開帳が行われており、ごなたでもお祖師さまにお目にかかり御祈願をすることが出来ます。また、リモート祈願も行っておりますので、遠方いらっしゃるって直接お参りできない方でもオンラインでお開帳を受ける事ができます。



▲荘厳された内陣



▲迦陵頻伽

▼廣目天



▲増長天

お祖師様と私

このコーナーでは、当山とゆかりのある方々をご紹介します。

第三十四回

事務用品販売
有限会社大國屋

社長

堀内 久美子 さん



堀ノ内で生まれ育った私は、子どもの頃から「おそっさま」に慣れ親しんでまいりました。お会式の時

にはウキウキして勉強も手につかない程でした。今でも同じ気持ちでございます。

元陸軍少将で、賀陽の宮様のお付き武官であつた祖父はとても信心深く、自ら「日織」を名乗る程の法華経の行者でした。毎朝鉄門の前で朗々と方便品を唱える事を日課として居り、私も祖父の傍でお経に親しんでまいりました。

中学校に進学する折りも祖父の鶴の一声で東京立正中学校に入学致し、六年間日蓮様を勉強致しました。

その後、早逝をしてしまいました父の事務用品販売店を継ぎまして早五十年が過ぎましたが、その間変わらず「おそっさま」にお仕事を頂き、又団参にも参加させて頂き、この上ない幸せで有難い事でございます。常々何かお役に立てればと思つて居りました所、平成二十七年環状七号線妙法寺入口に大看板を新設させて頂くこととなりました。ご参拝者様のご案内の一助になればとの思いでございます。私はいずれ「おそっさま」の素晴らしい建物等を勉強させて頂き、ご案内をするボランティアガイドをさせて頂きましたら幸いです。

紙面にこの様な機会を与えて下さいましたご縁に心より感謝を申し上げます。有難うございました。



かわら版

当山の行事やご祈願などをご案内する「一ナー」です。

記事についてのお問い合わせは、お気軽に寺務所まで。

《電話》〇三・一三三三・六二四一

社会情勢により行事内容が変更または中止になる場合がございます。くわしくはホームページをあわせてご覧下さい。

◎ 法華千部会のご案内

▼祖師堂に集まった大勢の僧侶による「お千部」の様子



法華千部会は、江戸時代より二百年を越えて行われている伝統行事の一つです。

法華経は壹部読むだけでも大変功德がある為、千部会の賛助者(千部施主)となる功德・ご利益は計りしれません。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、本年は五月十一日(水)～五月十三日(金)の期間、山内にて厳修致します。千部施主になられた方には郵送にてお札をお送り致します。

■五月十一日(水)～十三日(金)

お経……………十時・十三時半

千部施主 一名 三千元也

※お札の郵送のみとなります。

— 新盆会 —

四十九日の忌明け後、初めて迎えるお盆は新盆または初盆といい、特に丁寧に供養を営みます。当山では、新盆を迎えたお檀家様の各霊位を供養する法要を営みます。

お檀家の皆様と新盆会▼



■〈日時〉七月十三日(水) ……十三時より

■〈場所〉本堂

※各家には、ご案内・申込書をお送りします。

◎ 孟蘭盆施餓鬼会

「孟蘭盆」は、目連尊者が母親を餓鬼界から救う話が由来となっています。

有縁無縁の霊、法界万霊を供養し、全ての生きとし生けるものに感謝する法要です。

■〈日時〉七月十六日(土) ……十三時より

■〈場所〉本堂

◎ 土用の丑ほろく灸

夏の「土用の丑の日」に行われる行事です。

頭痛は悪鬼の障りによって起こると信じられていた時代から、その障りを除くために始められたものです。



■〈日時〉七月二十三日(土)・八月四日(木)

……九時～十六時(随時受付)

■〈場所〉祖師堂

● 祈願料 一名 三千円より

目連尊者は、お釈迦様に教えられたとおり、修行僧たちをもてなして供養を施し、その功德で母親を餓鬼界の苦しみから救うことができました。



孟蘭盆施餓鬼会の様子▲

ではなく、他人を導き救うことこそが自身の父母・先祖を救うことに繋がってゆくというものです。

「孟蘭盆施餓鬼会」は、先祖の霊と共に

◎ 千日紅繫和会

妙法寺では境内を開放し、千日紅繫和会主催のイベントが行われております。

千日紅を通して、ふれあうことの大切さや、おもてなしの心を育み、子どもから大人までお楽しみいただけます。



▲昨年の千日紅奉納祭の様子

■ ふれあい祭り …… 七月三日(日)

■ 千日紅奉納祭 …… 十一月三日(木)

お問い合わせ

千日紅繫和会(清水屋)まで
電話 〇三―三三三―〇七二五

「誰ひとり取り残さない」ことを意識し、提唱されたSDGs。その17のゴールは本校の理念「生命の尊重・慈悲・平和」と呼応している部分が多々あります。近年はイノベーションコース主体で全校的にも広がり

を見せる取り組みへと活動が飛躍しております。主な内容としては、イノベーションコースが中学生の間に「世の中の課題を自分事として

考えられるようになる」ためのワークショップ。高校1年次の、子ども食堂や妙法寺での寺子屋に参加し、子どもの課題や大人が行う地域貢献活動を知るきっかけづくり。高校2年次の、「カンボジア課題解決型研修」で訪れる現地校と、孤児院、その事前学習として調査するSDGsのゴール。高校3年次には文化祭で訪問した孤児院の子どもが作成したミサンガを販売し、寄付する活動など、様々な方々の活動や課題

を目の当たりにし、そのたびに生徒の課題意識も変わってゆきます。自分の目標に「誰かのため・何かのため」といった視点をプラスできる本校のSDGsに関する活動は、現在、「紫友会×SDGs」として17のゴールを東京立正バージョンにして身近な取り組みを行う活動や「部活動×SDGs」としてそれぞれができることを探りながら取り組むような活動を進行中です。これにより、SDGsは横のつながりを超え、全校に浸透しつつあります。現代社会を生きる上で必要になるのは、自分自身で情報を見極め、一つ一つの物事に意見を持つことだと考えます。多様な価値観の人々と接することで、自らの考えにも幅が出てくると考えているので、「東京立正×SDGs」として今後も継続的に取り組んでいきます！



紫友会代表・SDGs委員会代表 原子 桂輔

「東京立正 × SDGs」



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





東京立正短期大学

Tokyo Risho Junior College

東京立正短期大学
現代コミュニケーション学科
(共学)

現代コミュニケーション専攻

幼児教育専攻

- ビジネスコース
- 心理コース
- 観光コース



Open Campus

オープンキャンパス 予約制 スケジュール

- 《2022》
- 4月16日(土)
 - 4月23日(土)
 - 5月 8日(日)
 - 5月29日(日)
 - 6月 4日(土)
 - 6月12日(日)
 - 6月19日(日)
 - 7月 9日(土)
 - 7月16日(土)
 - 7月23日(土)
 - 7月30日(土)
 - 8月 6日(土)
 - 8月21日(日)
 - 8月28日(日)

ミニオープンキャンパス りったんカフェ♥
個別相談会もありますので
各詳細や最新情報はホームページへ!!



- 全日10:30~学校紹介
- 11:00~テーマ別トーク、
- 模擬授業、キャンパス見学ツアー、
- 個別相談等を開催予定です。
- 内容などが変更になる場合があります
- ので、詳しくはホームページで
- ご確認ください。

〒166-0013 杉並区堀ノ内 2-41-15
TEL 03-3313-5101 FAX 03-5377-7641

URL <http://www.tokyorissho.ac.jp/>



完全中高一貫プログラムの
グランドデザインで
国際社会での活躍を目指した
真のグローバルリーダーを
育てています。

まずは、学校説明会・ホームページへ。

2023年度入学者対象・学校説明会の日程等は
ホームページ で最新情報をご確認ください。

ホームページでは「VR学校見学」や「YOUTUBE動画」などもご覧いただけます。
まずは気軽にアクセスして見てください。

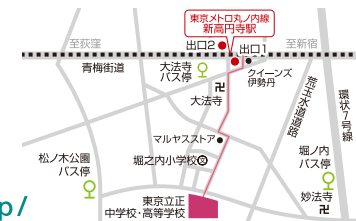


学校法人 堀之内学園

東京立正 中学校 高等学校

〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内 2-41-15
TEL 03-3312-1111 FAX 03-3312-1620

URL <http://www.tokyorissho.ed.jp/>



墓石・記念碑門塀
諸石材工事
マサ
株式会社

中島正石材

〒一六六・〇〇一三 東京都杉並区堀ノ内二一三二一
TEL 〇三(三三二)六八八四六代
FAX 〇三(三三二)六八八二二

ご葬儀をご想儀へ

ムラカミの安心と信頼が
皆様の想いを
サポートいたします。

ご家族葬から
社葬・団体葬までご対応。
1級葬祭ディレクターが
責任を持って担当いたします。

365日24時間 自社所有の
寝台車による速やかなお迎え。
霊安室も完備しております。

葬祭業安心度調査
AAA評価

JECIA格付
★★★★★認定

村上葬祭
株式会社 ムラカミ

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-28-2
<http://www.murakami-sousai.co.jp>

ご葬儀・ご法要をはじめ、ご不明な点について、
無料でご相談にお応えいたします。
24時間・365日ご対応 ☎ 0120-711-556

仏壇・仏具・位牌
みす平は創業300有余年の神・仏具の専門店
オータメイトでの仏壇製作から、古くなった仏壇・仏像・お位牌
などの修理、修復も承ります。

良品
安値!

みす平は10年後、20年後の信用を大切にします。

神・仏具のみす平
株式会社みす平飛天堂

☎ 042-334-9981 FAX 042-334-9982
〒183-0045 東京都府中市美好町1丁目30番地の13
<http://www.misuhei.co.jp>

清水屋

御菓子司

〒166-0013 杉並区堀ノ内 3-48-3 ☎ 03-3311-0725

【営業時間】和菓子 ◆10時～17時
手打ち蕎麦 ◆11時～18時 (以後はご予約のみ)
◆火曜日：11時～15時
※いずれも蕎麦がなくなり次第終了

【定休日】和菓子 ◆火・水曜 ※三のつく日は共に営業
手打ち蕎麦 ◆水曜 致します。(振替休日有)

編集後記

コロナウイルス感染が蔓延し、なかなか終息の兆しが見えない毎日に心がいたみます。

そこに光を注いだのはメジャーリーガー二刀流の大谷翔平選手の大活躍ではないでしょうか。大谷選手の、観客も驚くほどのホームランを打ち・速いボールを投げる・素早く走るその姿は実に頼もしいですね。

それに加えて、彼がグラウンドに落ちているごみを拾う姿を見た少年が「僕は野球は下手だが、ごみを拾う事は出来る」と思い、毎日公園で拾っているそうです——と新聞の投稿欄に有りました。今年も二刀流大谷翔平選手頑張れ！希望の光を放って下さい！

教雄記

教誌編集委員

委員長	小田雄
委員	嶋田教
	吉田教
	山田教
	山形教
	宇都宮教
	新井教
	望月教
	望月教
	石川教